



発行所：諏訪実業高等学校同窓会
発行編集者：広報部
印刷：株式会社オノエ印刷

平成26年度定期総会開催

新副会長に阿部・中村・北沢の三氏
前副会長の林・河西・伊藤・藤澤の四氏は常任幹事に

平成26年度同窓会定期総会が5月17日(土)にラコ華乃井ホテルで開催された。
学校から倉田校長、原教頭、宮澤教頭、東海支部から小口支部長が出席された。大久保会長は挨拶で、2020年には母校創立百周年になるので、それに向けて会員の協力を要請した。倉田校長は、生徒と市民が合同で授業を創り出していくこと、また生徒が授業を評価すること、学校運営についても評価が行われることを述べた。

役員改選では林清次、河西克朗、伊藤勝郎、藤澤輝雄の四副会長が退任した。従来は副会長が退任すると参与になったが、今回は会員からの強い要望で引き続き常任幹事として残ってもらうことになった。今までの経験を生かした活躍が期待される。
四氏の退任に伴い新副会長に阿部義弘(岡谷支部長兼任)、中村守男(文化部担当)、北沢幸子(渉外部担当)の三氏が選任された。

今年度の事業計画では、渉外部が各支部の組織強化と支部相互の連携の促進、支部活動への積極的支援、

在校生の活動支援など、文化部が研修旅行の実施、各種講習会の開催など、広報部が会報の発行と永年購読者の拡大などを上げている。
続いて昭和41年卒業の小泉進氏による「カーリング」と題する講演が行われた。講演では、諏訪がカーリング発祥の地であること、ソチ五輪での日本女子とロシア女子との対戦のスライドを使ってカーリングの見方を解説し、更にカーリングがビジュアルな(視覚に訴える)スポーツになってきたことを話された。懇親会では退任した副会長四氏に感謝状が贈られた。校歌と追遥歌の他に増澤三平先生の木遣りもあり、にぎやかなうちに散会となった。



講演する小泉氏

Table with financial data for the 26th fiscal year, including income and expenses.

平成26・27年度役員

- List of board members and their terms: 会長 大久保 一 (43年卒), 副会長 宮下 孝正 (34年卒), 阿部 義弘 (35年卒), 武井 範好 (36年卒), 村田美香子 (37年卒), 中村 守男 (42年卒), 伊藤 久典 (43年卒), 花岡 廣子 (43年卒), 北沢 幸子 (44年卒), 新妻比佐志 (53年卒), 増澤 義治 (57年卒), 岩波 政雄 (41年卒), 三井 安雄 (47年卒), 小平 紀文 (59年卒), 事務局 小口祐希枝 (学校)

二期目に向けて



同窓会々長 大久保 一

会員の皆様お元気でお過ごしですか。日頃より同窓会活動にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。
本年度も5月17日に華乃井ホテルに於いて同窓会定期総会を開催致しました。学校から倉田校長先生をはじめ、この春より新任された原全日制教頭先生、宮澤定時制教頭先生、また東海支部より小口支部長のご出席を頂きました。
報告、26年度事業計画と予算案などを満場一致で承認頂きました。
本年度は二年に一度の役員改選の年であります。私、微力ながら二期目を務めさせて頂きます。役員改選では上條前会長の時から長年副会長を務めて頂いた岡谷支部

長兼任の林清次さん、文化部長の藤澤輝雄さん、広報部長の河西克朗さん、茅野支部長兼任の伊藤勝郎さんの四名が退任しました。四名の方からは事ある毎に貴重な助言を頂きました。今後いろいろな意見を頂ければ幸いです。
新副会長に35年卒の阿部義弘さん(岡谷支部長兼任)、42年卒の中村守男さん、44年卒の北沢幸子さんをお願いしました。ご支援をお願い致します。
6年後の母校創立百周年に向けて、来年には実行委員会を発足させる予定です。新役員の皆様と共に心も新たに一丸となって頑張って参りますので、ご協力のほどお願い致します。

災害の怖さと使命



学校長 倉田 吉 春

台風による南木曾町の土石流、御嶽山の噴火による噴石、長野県を襲った自然災害は、大勢の命と自然、そして、人々の暮らしや大勢の家族の平和を奪った。幼いながら昭和三六年の災害(おぶろくさいがい)の記憶が蘇ってくる。
あれから五〇年の歳月が流れている。本校の歴史を紐解くと、「昭和三四年八月一四日、台風七号によって上川の堤防が決壊し、小和田田んぼを押し流した泥水が、弁天町の校舎を泥海に化した。」という記録が残っていた。「先生と生徒は、お盆にもかかわらず首まで泥水につかり、流れ出す備品を手当たり次第かき集めた。」その光景が今日のニュースを見ていると目に浮かぶようである。

富士山は、一〇年以内に噴火するかもしれない、とある雑誌で読んだ。震度七以上の地震がいつ来てもおかしくないと、テレビの評論家が話している。諏訪実業高校の地盤が少しずつ下がっていることは、グラウンドと体育館の間を通るたびに感じることである。
今年度、災害にあわれた皆様にご心より哀悼の意を述べさせて頂いただけでなく、自分のことのように、危機管理の大切さを痛感します。登校させるか、休ませるか。早く帰すか、授業を続けるか。今年も何度となく決断をしなければならぬ場面がありました。おかげさまで大過なく過ぎましたが、今後の自然災害から、人命を第一に考え、さらに大勢の先輩から譲り受けた校舎・体育館・グラウンド・備品等を守り通していくことも使命と考える。そして、目に見えない伝統と信頼、同窓

自分で考えて、自分から行動する

進路指導主事 福澤 憲一

生徒には「で、から」と省略して伝えてきましたが、「自分で考えて、自分から行動する」姿勢を身につけることが進路指導の一番重要なことだと考えています。なぜなら、「自分で考えて、自分から行動する」という主体的な姿勢が仕事や学校を選ぶことだけに限らず、これからの人生の様々な局面において大きな役割を果たすと考えているからです。進学するにせよ就職するにせよ、この時期の選択が自分の人生をある程度決定すると言っても過言ではありません。そういう意味では自分の進路を考えることは自分の人生を考えること、即ち人生設計をすることでもあります。そこで

Table showing career aspirations for 3rd year students in the 26th fiscal year, categorized by course and gender.

喜びの受章

笠原 邦義さん(昭和27年卒諏訪市)

秋の叙勲で笠原邦義さん(80)が地方自治の功労で旭日章を受章された。
笠原さんは諏訪市中洲神宮寺に生まれた。諏訪実業高校を卒業後、市内の会計事務所勤務。所長の勧めで中央大学法学部の通信教育を受け、1960年に税理士の資格を取得した。翌年自宅に会計事務所を開いて独立。66年に辰野町平出に事務所を移し、現在に至っている。
諏訪市議会議員を3期12年努めた後、96年から10年以上にわたり諏訪市の代表監査委員を務めた。予算の執行状況や財産管理、公営企業の経営状況などをチェックし、「無駄はないか、効生・地域の皆さんとの絆を次の世代に引き継いで行きたい」と改めて考える。

このたびの受章について「多くの人のご指導とご協力でご受章できた」と感謝する。
現在は事務所を長男に譲ったが、毎日事務所に向かい顧客の相談に応じている。趣味は囲碁と、妻に勧められて始めた短歌だと言う。
★ ★ ★
笠原さんは永年にわたり母校同窓会の役員を務め、特に母校創立80周年の折(1990年)には同窓会長として記念事業の実行委員長を務めた。また、永年にわたり母校生徒の就職活動を支援している。